 富山高等専門学校				開講年度	017年度) 授		業科目	分析化学	: I			
 科目基礎						,						
<u>- 10 至 6</u> 科目番号	CIDTK	0067				科目区分		専門 / 選抜	·····································			
授業形態 授業						単位の種別と単位		履修単位:				
開設学科		物質化物	 学丁学៛	과 		対象学年	- XX	2				
開設期		後期	<u>, </u>	7				2				
				ントを配布する		週時間数 2						
我行者/教 担当教員	1/2]	福田知		フレルで用いける ダ	J 6							
		佃田 和	守									
到達目標	_											
・弱酸の塩・共通イス		≣基の塩の	pHを計	算できる。	を調整することがて	<u>:</u> きる。						
ルーブリ	ノック					T			_			
				想的な到達レ	標準的な到達レベルの目安		未到達レ	未到達レベルの目安				
評価項目1				酸および弱塩! 理解し、応用! きる。	基のpH計算を正し 問題を解くことが	弱酸および弱塩基のpH計算を理解し、基本問題を解くことができる。			弱酸およっ できず、 い。	弱酸および弱塩基のpH計算を理解できず、問題を解くことができない。		
評価項目2				酸の塩および を正しく理解! ことができる。	弱塩基の塩のpH計 し、応用問題を解 。	弱酸の塩および弱塩基の塩のpH計 算を理解し、基本問題を解くこと ができる。			弱酸の塩および弱塩基の塩のpH計 算を理解できず、問題を解くこと ができない。			
評価項目3				通イオンの影響	響を正しく理解し 衝溶液を調整する	共通イオンの影響を理解し、一部 のpHの緩衝溶液を調整することが できる。			共通イオンの影響を理解できず、 緩衝溶液を調整することができない。			
学科の至	引達目標項	目との		= :		•			•			
教育方法	 法等											
概要		反応速原 講義し、 や緩衝 問題を	き、化≒ 、それを 容液に1 行う。	学平衡の概念を を用いて弱酸、 ついて計算方法	注第一の目的とし、 注理解する。次に種 弱塩基のpHを計算 法を勉強する。次に	々の水溶液のpH を する。さらに弱酸 沈澱の生成について	を求める の塩お。 て講義し	計算問題をよび弱塩基	を行う。具体 の塩のpH、 うな条件で)	本的には質量化 そして共通∼ 沈澱するか、	作用の法則を イオンの影響 などの計算	
	か方・方法	とが重要	要である	3.	夏を解く方法を勉強 		で、自分	すで種々の	演習問題を	実際に解く練	習をするこ	
注意点		投耒計	쁴は, −	子生の理解及に	応じて変更する場	声がある。						
授業計画	<u> </u>											
		週	授業					の到達目標				
	3rdQ 4thQ	1週	pHの	求め方			強酸、	強塩基のpHの計算ができる				
		2週	弱酸、弱塩基のpH(1)			酢酸のpHを計算できる						
		3週	弱酸、	、弱塩基のpH	(2)		アンモニア水のpHを計算できる					
		4週	中和原				弱酸または弱塩基を用いた中和反応を計算できる					
		5週	演習	問題			これまで習った範囲における応用問題を解くことがで きる					
		6週	小テ				<u>උන</u>					
		7週	中間語				一 一 一					
後期		8週		の強塩基塩			酢酸ナトリウム水溶液のpHを計算できる					
		9週		基の強酸塩			塩酸アンモニウム水溶液のpHを計算できる					
		10週		イオンの影響		共通イオン存在下での塩のpHを計算できる						
		11週	緩衝	仅		緩衝液の利用した時のpHの変化を計算で理解できる						
		12週	演習	問題		これまで習った範囲における応用問題を解くことだける。				*く <i>こと</i> かで		
		13週	小テ	スト			_ 0					
		14週		<u>ヘローーーー</u> 解性塩								
		15週	期末			1月15十一天 1月15日 1月			7+ CC 0			
		16週	\ <u>4</u> 1\/\C	7.€IV+1								
	_ ファ カ リナ		ン₩¤¤									
	ュゲルワキ		ルチ首			35				지나를 나 쓰기	拉茶,田	
<u>分類</u> 専門的能力		<u>分野</u> D専 化学・生物系分野		学習内容	学習内容の到達目標 いくつかの代表的な陽イオンや陰イオンの定性分析のための化学 反応について理解できる。			ための化学	到達レベル 3	授業週 後4		
					電離平衡と活量に	ついて理解し、物質量に関する計算がで こついて理解し必要な計算ができる。		ができる。	3	後10		
									4	後14		
					沈殿による物質の分離方法について理解し、化学量論から沈殿量		4					
	- 分野型オ		. 生物		の計算ができる。				4	後14		
	り、門工学		野	分析化学	強酸、強塩基および弱酸、弱塩基についての各種平衡について説明できる。			4	後2,後3			
					強酸、強塩基、弱酸、弱塩基、弱酸の塩、弱 算ができる。		9温基の塩(ルpHの計	4	後2,後3,後 8,後9		
					緩衝溶液とpHの関係について説明できる。				4	後11		
					陽イオンや陰イオンの関係した化学反応について理解し、溶液中			4	後10			
	1	1		1	の物質の濃度計算(定量計算)ができる。			1'	12.10			

			中和滴定についての原理を理解し、酸及び塩基濃度の計算ができ 4 後4								
評価割合											
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100				
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0				
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100				
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0				